



Annual
Activity
Report **2012**

2012年度 年次報告書

P02-03 目次

P04-05 スタッフ相関図

P06-07 活動地域・活動内容

P08-09 テラ・ルネッサンスとは

P10-13 テラ・ルネッサンス世界会議

P14-17 国際協力事業：アジア

P18-21 国際協力事業：アフリカ

P22-25 東日本大震災における被災者支援「ともつな基金」事業：日本

P26-31 啓発事業・人材育成事業：日本

P32-39 会計報告

テラ・ルネッサンスは、
1人の100歩より、100人の1歩をめざします。



スタッフ関連図

ご挨拶

創設者 鬼丸昌也

テラ・ルネッサンス世界会議と銘打って、カンボジア、ウガンダ、コンゴ、岩手と、各地の事務所よりスタッフ代表が一堂に会して、おのおのの現場で実践している「テラ・ルネッサンスらしい支援のありかた」について、支援者を含む日本の皆さまにお伝えすることができました。

各事務所からスタッフ代表が一堂に会するのは、テラ・ルネッサンス設立以来、初めてのこと。ウガンダやコンゴ、カンボジアのスタッフたちが、京都事務所内外で楽しそうに交流したり、真剣にお互いの活動報告に耳を傾けている姿を見て、私の胸に熱いものがこみ上げてきます。たった一人で始めた運動(テラ・ルネッサンス)が、こうして民族も国籍も超えた素晴らしい仲間たちとともに進めることができることに、ただただ感謝の気持ちで満ちあふれました。

それは、他のスタッフたちも同じです。「すべての生命が安心して生活できる社会(世界平和)の実現」という同じ目的を目指して、世界各地で、一生懸命頑張っている仲間がいるということ、肌感覚でスタッフ一人ひとりが感じ取れたことにより、組織にさらなる一体感を生み出すことができたのです。この年次報告書で、設立目的と理念に向かい、一体感を持って取り組む世界各地の様子をご覧いただくと幸いです。



創設者/理事
鬼丸昌也

本部事務局(京都)



理事長/
海外支援事業部長
小川真吾



物品販売/講演管理/
会員サービス担当
牧野由起子



国内事業部長
栗田佳典

カンボジア事務所



カンボジア事務所 所長
江角泰



プロジェクト・コーディネーター
クン・チャイ



建設担当
ブン・トゥン



会計担当
ヨート・イエト



ドライバー
ヴァン・ソッピア



裁縫技術指導員
サムリット・ラウ



事務所警備員
ホウト・ヒアト

コンゴ事務所



コンゴ事務所 所長
テオフィー・シチバンジ



ロジスティシャン
チルフラ・バヒンデウワ



事業調整員
ナメガベ・ピチュラ



アフリカ事業コーディネーター
トシャ・マギー



ドライバー
マソンガ・チズング・ジョージ



事業調整員
マバタノ・ルワバグマ



プロジェクト短期調整員
吉田真衣



財務/会計担当
関貴広



IT人材育成支援事業担当
吉野和也



岩手事務所 所長
鈴鹿達二郎



プロジェクト調整員
内野恵美



刺し子会担当
町博子



顧客対応/刺し子会担当
佐々木静江



アドバイザー
津野尾尚子

岩手事務所

インターンシップ(研修生) ※2013年6月現在



芦沢博稔



金智娜



栗原希



迫那津美



鈴鹿純子



高木和俊



西村望美



マリウス・パルツ



服部拓磨



古岡籬



渡邊恭晃



河合良智

ウガンダ事務所

※2013年6月現在



セキュリティ担当
オチャカ・ジャコブ



BHN支援担当
アティム・クリスティーン



セキュリティ担当
コマケチ・チャーチル



ドライバー
オボカ・パトリック



BHN支援担当
オチャカ・グレース



能力向上支援担当
(服飾デザイン訓練講師)
アネエコ・ピッキー



プロジェクトオフィサー
オケロ・リチャード



能力向上支援担当
(洋裁訓練講師)
オコト・ジョセフ



研修生
アデウバング・マティオ

活動地域 活動内容



Photo: 山田しん

ラオス人民民主共和国

- ラオス不発弾撤去活動支援プロジェクト
- 不発弾汚染地域ノンヘッド郡中学校建設プロジェクト(2009年完了)



コンゴ民主共和国

- コンゴ(民)東部における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト



ウガンダ共和国

- ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト
- 不法小型武器問題の啓発プロジェクト



カンボジア王国

- 地雷埋設地域村落開発プロジェクト
- 地雷埋設地域小学校建設プロジェクト
- クメール伝統音楽復興&継承プロジェクト
- 地雷回避教育プロジェクト
- 地雷撤去支援プロジェクト



テラ・ルネッサンスが取り組む課題



地雷

世界に6000万~7000万個もの地雷が現在も残されており、15,000人~20,000人が犠牲になっています。



小型武器

年間50万人が小型武器の犠牲となり、その約7割が女性と子どもたちです。また、子ども兵が増える原因の一つにもなっています。



子ども兵

18歳未満の子どもの兵士が世界に最低でも25万人(19ヶ国)存在するとされています。その内の8ヶ国がアフリカに集中しています。

日本

- 啓発活動(講演、ワークショップ、スタディーツアー、パネル展示など)
- 政策提言(武器貿易条約締結に向けたキャンペーン及び政策提言活動など)
- 東日本大震災復興支援活動(とつな基金/大槌復興刺し子プロジェクト)



テラ・ルネッサンスとは

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立目的(ヴィジョン)を追究するために行われます。ヴィジョンを達成するために、責任を持って果たさなければならない任務が使命(ミッション)です。そして、すべての活動の指針となるのが、活動理念です。

団体概要	
正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
設立年	2001年(法人格取得2005年)
活動対象国	カンボジア王国、ラオス人民民主共和国、ウガンダ共和国、コンゴ民主共和国、日本
理事長	小川真吾
海外・国内事務所	カンボジア事務所(カンボジア王国バタンバン州)、ウガンダ事務所(ウガンダ共和国グル市) コンゴ事務所(コンゴ民主共和国南キブ州)、本部事務局(京都)、岩手事務所
海外における 主な協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ●ウガンダ Gulu Support the Organization(GUSCO)、Gulu NGO Forum ●ラオス MAG-Lao ●カンボジア Mine Advisory Group(MAG)、Cambodia Trust ●コンゴ民主共和国 GRAM Kivu

役員・体制	
	(2013年3月末日現在)
理事	小川真吾(特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事長) 鬼丸昌也(特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事) 中井隆栄(株式会社サビエンスマネジメント代表取締役) 岡田多母(有限会社アースエネルギー研究所取締役)
監事	鯉田勝紀(公認会計士・税理士/鯉田会計事務所)
顧問	小田全宏(特定非営利活動法人日本政策フロンティア理事長)
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ●本部事務局(京都) 有給専従職員 3名、 インターン 11名 ●岩手事務所 有給専従職員 6名、 有給非専従職員 2名 ●ウガンダ事務所 ローカルスタッフ 9名 ●カンボジア事務所 日本人有給職員 1名、 ローカルスタッフ 7名 ●コンゴ事務所 ローカルスタッフ 6名
会員数	正会員 122名/個人賛助会員 264名/ジュニア賛助会員 13名/団体賛助会員 48団体/ ファンクラブ会員 589名 【合計延べ 1036名・団体】
加盟団体	特定非営利活動法人関西NGO協議会 地雷廃絶日本キャンペーン 日本小型武器行動ネットワーク 児童労働ネットワーク ウガンダ小型武器行動ネットワーク 国際小型武器行動ネットワーク 世界子ども兵禁止連盟 京都NGO協議会 グルNGOフォーラム 京都経営品質協議会 素晴らしき経営研究会



五色の輪は、アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ、ヨーロッパの五大大陸を意味しています。多様な価値観をもつ人々がつながり、ひとつの輪(和)を作り上げていく、そんな世界をめざす、平和への願いがこめられています。

目的の世界 テラ・ルネッサンスの目的(ヴィジョン)

すべての生命が安心して生活できる社会(=世界平和の実現)の実現

使命の樹 テラ・ルネッサンスの使命(ミッション)

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活(簡素な生活)を実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

理念の土壌 テラ・ルネッサンスの活動理念

1. 私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。
2. 私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。
3. 私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。



テラ・ルネッサンス 世界会議



Photo : 山田しん

「一人ひとりに未来をつくる能力(ちから)がある」と信じて、テラ・ルネッサンスは、カンボジアを皮切りに、ウガンダ、コンゴ、そして岩手にて、一人ひとりに寄り添う支援を続けてまいりました。現地の「自立と自治」を促進することを目的に、それぞれの状況に応じた、きめ細かい支援を実施してきたことは、テラ・ルネッサンスの支援の特徴といってもいいでしょう。今までの支援を振り返り、「ひとりに寄り添う支援のありかた」、「これからの支援のありかた」を、海外事務所働く現地人スタッフとともに考え、多くの市民の皆さまにお伝えするために、テラ・ルネッサンス世界会議(東京大会、京都大会)を開催することにいたしました。あわせて、職員の相互交流を通じて、テラ・ルネッサンスの目的や使命、活動理念をあらためて共有することも世界会議を開催する目的としています。

東京大会:基調講演

高野登 (人とホスピタリティ研究所代表・元ザ・リッツカールトンホテル日本支社長)

ホスピタリティの原点は、「人に寄り添う心」

私は、1994年に帰国するまで約20年、アメリカのホテル業界で働いてきましたが、中でもリッツ・カールトンホテルで働いたことは、非常によかったと思っています。

それは、「人に寄り添う」というホスピタリティ(思いやり、もてなしの心)が、民族や国境を越えて人間が持つべき、ひとつの共通項ではないかと気づくことができたからです。

「寄り添う」と言うと、上から目線でものを言っているように感じるかもしれませんが、まったく違います。ホスピタリティの原点は、「誰かのために何かをやってやる」というかみを持たずに、自分の気配を消して、相手の中にフツと入り、歩み寄ることです。

自分の中で最高に磨き上げるべきものは、きちんと磨き上げ、身につけるべきものは、きちんと身につける。それでいて、相手の懐に入っていく時は、自分の気配をスッと消せる人が、実はすごい人だと思います。

お客様のために自分たちができる最大のことは何か。目の前の問題に対処するための最善の策は何か。リッツでは、全員が、相手の立場に立って自分の心で考えます。表現方法はどんな形であっても、相手の気持ちに寄り添えること。それが、究極のホスピタリティだと思います。

ホスピタリティとは、自分たちの周りを取り囲んでいる状況にどれだけ思いを馳せ、「当たり前」のレベルをどれだけ上げることができるかということ。今、それが問われているのではないのでしょうか。



高野登

1953年、長野県生まれ。プリンスホテルスクール(現日本ホテルスクール)第一期卒業。1974年渡米。ニューヨーク(NY)・ホテルキタノ、NYプラザ、LAボナベンチャー、SFフェアモントなどでの勤務を経て1990年にザ・リッツ・カールトン・サンフランシスコの開業に携わる。1992年に日本支社開設のため一時帰国。1993年にはホノルルオフィスを開業。翌94年、日本支社長として転勤。リッツ・カールトンの日本における営業・マーケティング活動を行いながら、ザ・リッツ・カールトン大阪の開業準備に参画。2007年3月のザ・リッツ・カールトン東京の開業後は、さらにポジショニングを強化すべく、積極的にブランディング活動に取り組む。2009年に同社を退社し、人とホスピタリティ研究所設立。著書に、『絆が生まれる瞬間』、『リッツ・カールトンが大切にしているサービスを超える瞬間』(共に、かんき出版)

パネルディスカッション

コーディネーター 本間正人 (らーのろじー株式会社 代表取締役)



日本には「おもてなし」という言葉がある。日本人が持っている相手に応じたおもてなし。しかも、それは仕組みに裏打ちされている見事なものだ。ボランティアとして海外に出かけていく時に、重要視すべきは、その「おもてなし」だと感じている。テラ・ルネッサンスの取り組みが素晴らしいのは、おもてなしに通じる点が多くあるということだ。どうしても援助は、定量的な成果が求められがちである。けれども、テラ・ルネッサンスは定量的な成果とともに、支援対象者一人ひとりに焦点をあて、彼ら彼女たちの成長をサポートしている。このことが、テラ・ルネッサンスの支援の最大の特徴である「人に寄り添う支援」なのだと思う。

アフリカに住んでいると、人の命というのは、いつかはなくなるのだと日常的に考える機会が多い。ウガンダ北部に着任した当初、1週間で1000人がなくなっていた。それも、十分な治療が受けられれば治すことのできるマラリアや、栄養不良などによる紛争関連死によるものだった。そんな状況を常日頃、見聞きしていると、いつかは私の命も亡くなるのだと自覚をするようになった。だからこそ、今、自分が後悔しない生き方をしたい。一人にできることは限られているとは思いますが、自分の役割を果たしていきたい。仮に自分のやっていることが、現代の人たちに評価をされなくても、50年先の子どもたちが評価してくれればいいと思い、活動を続けています。

一般的な支援と、テラ・ルネッサンスの行う支援の違いは、誰に焦点をあてているかの違いだと思う。私たちは個人に焦点をあてている。なぜならば、同じ元子ども兵であっても、一人ひとり抱えている課題が違うからだ。だからこそ、相手に応じた異なるアプローチを大切にしている。先進国からの支援は、アフリカが抱えている問題をカテゴライズするくらいがある。重要なことは、支援の対象者一人ひとりに焦点を当てて、支援をする側の望むことではなく、彼ら彼女らが望むこと(自立)に寄り添い続けることだ。

パネリスト
高野孟

ジャーナリスト
早稲田大学大隈塾塾頭代行



パネリスト
小川真吾

テラ・ルネッサンス
理事長



パネリスト
トシャ・マギー

テラ・ルネッサンス
アフリカ事業コーディネーター



ウガンダで、元子ども兵社会復帰支援プロジェクトを開始した当初は、十分な資金がなく、現地事務所を開設して、高い家賃や車両代に資金を使うのではなく、まずは、元子ども兵たちへの小さな支援を始めました。子どもたちのフィールド、つまり村々が私たちのオフィスだったのです。たくさんのアイデアがそこから出てきました。元子ども兵たちと実際に接することで出てきたアイデアと、もともと考えていた計画を合わせて、その中で必要なやり方を選択していきました。

支援をする前に考えていた計画があったとしても、実際に現場で話を聞かなければ、本当に必要な支援は見えてこないのだと感じています。元子ども兵には、職業訓練をして収入を得ることのほかに、愛情や受け入れてくれる人々の存在も大切です。経済的に自立するための支援はもちろん必要ですが、それだけをすれば良いという問題ではなく、衣食住や心理的な課題も含めた、多面的なアプローチが必要だったわけです。

私は、アフリカの人たちに、「ちから」があることを前提にした支援が大切だと思っています。貧しくても、力がないわけではありません。紛争は私たちからあらゆるものを奪ってしまいましたが、私たちの中から力が消えたわけではありません。テラ・ルネッサンスも、元子ども兵に対して、できる限りの支援を続けてきましたが、それが理由で、彼らに変化・成長したとは思いません。必要なものを提供したとしても、能力を発揮したのは、彼ら自身の力なのです。これからは彼らの力を信じて、寄り添う支援を実践していきます。



トシャ・マギー

1980年ブルンジ共和国生まれ。幼い頃に母親を亡くし、父親に育てられてきた。7歳のとき、ブルンジ内戦の虐殺で、父親が殺害され、兄弟も行方不明となる。難民として、コンゴ、タンザニア、ケニアと渡り歩き、13歳の時にウガンダへ。05年にテラ・ルネッサンスと出会い、「一人ひとりに未来を創るちからがある」という理念に共鳴し、現地職員になる。現在、アフリカ事業コーディネーターとして、ウガンダやコンゴ(民)での元子ども兵や紛争被害者への支援事業などに関わっている。



コーディネーター 桜井政成(立命館大学政策科学部 准教授)

パネルディスカッション

紛争地域でどのように平和をつくるかというときに、平和構築の専門家たちがするアドバイスも重要。けれども、アフリカの人たちは、平和をつくる力が本当にないのだろうか。私が住んでいたウガンダ北部では、集団同士の紛争が起らないようにするための知恵や物語、ことわざが伝統の中にたくさんあった。現在で言う、紛争予防や平和構築にあたるもの。外部から、人が入ってくる前は、彼らの文化伝統の中で一定の秩序を保っていた。その文化や知恵は、元子ども兵の平和教育の中でも使ったりしている。自然を管理するのではなくて共存するという考えも、アフリカの人たちが持っている大きな知恵だと感じている。現地の知恵や体験に敬意を払い、尊重する支援こそ、人に寄り添う支援の大切なポイントだと思う。

カンボジア事務所に、女性の地雷被害者で、イェトとラウという職員がいる。彼女たちと出会い、「一緒に働かないか」と誘ったのだが、二人はまったく、その言葉を信じてくれなかった。いろいろな理由があるが、自分たちは文字も書けず、計算もできないので、仕事なんてできるはずがないと思い、不安で仕方なかったのだそう。けれども、少しずつメール語の読み書きを習得して、仕事ができるように。ラウは裁縫技術を勉強していたときなどは、「もっと裁縫技術できるようにになりたいんだ、時間ももったいない」と言って土日も休まなかった。そういう姿を見ているから、今、彼女が技術を教えている村の人たちもずっとミシンに向かっている。人は変わることができる。そんなことをスタッフの生きざまから教えられる日々だ。

ある84歳のおばあちゃんが自転車で仮設住宅から通われるようになった。以前は、足がしっかりしていなかったのだが、自転車に乗って筋肉が付いてきたとおっしゃっていた。そのような前向きな姿勢も、その人自身が、やる気になれば生まれてくるのだと感じている。商品の品質チェックでやり直しをお願いするとき、私たちたちが「すみません」と言うと、「すみませんって言わなくてもいいんだよ」と言ってくれる。「どどん言ってくれていいんだよ、本当に私たち一所懸命作りたいから」と言ってくださったときに、逆に私が刺し子さんの本来持っている力を信じていなかったんだと痛感した。私たちが彼女たちの「ちから」を信じて、引き出す環境を整備していくことに、もっと力を注いでいきたいと想っている。

パネリスト 小川真吾



テラ・ルネッサンス 理事長

パネリスト 江角泰



テラ・ルネッサンス カンボジア事務所 所長

パネリスト 鈴鹿達二郎



テラ・ルネッサンス 岩手事務所 所長

私はウガンダ北部のグル県から来ました。テラ・ルネッサンスで働き始めて6年になります。1986年以降、グルでは反政府軍による多数の人権侵害が行われました。2006年に停戦合意が結ばれ、今は復興に向けて歩み始めたところです。テラ・ルネッサンスは、ウガンダ北部で紛争の影響を受けた人々に対する再教育や職業訓練、食料援助などを行っています。心理社会的な支援によってトラウマを少なくしたり、人々が収入を得られるようになるための活動もしています。支援を行う時に、大切にしているのは、受益者(支援の対象者)を、第一に考えることです。

私の生まれたアチヨリの人々のことわざで「リベ・アイエ・テコ」という言葉があります。一人や二人の力では大きなことをすることができなくても、たくさんの人の力が集まれば、大きなことを成し遂げられるという意味です。一人ひとり小さな力でも、みんなで力を合わせれば、きっと世界は平和にすることができると信じています。

ウガンダ



オテマ・ジミー

ウガンダ事務所 所長

コンゴ



テオフィー・シチパンジ

コンゴ事務所 所長

私はコンゴ民主共和国から来ました。5人の子どもの父親です。コンゴはアフリカ中部に位置しており、豊かな資源を持っていますが、それを有効に使えていません。特に1996年からは紛争により大きな被害を受けています。この問題は現在までずっと続いており、800万人の人が亡くなったとされています。

小さな子どもたちは捕まえられて兵士にさせられます。兵士にさせられてしまった子どもたちは人を殺したり、麻薬を使ったり、レイプをしたり、物を盗んだりといったことを教えられます。

皆さんにお伝えしたいメッセージがあります。子どもたちがいるべき場所は森の中や軍隊ではありません。家族と一緒に過ごす空間が必要だと思います。子どもたちが武器をとって戦うのではなく、ペンをとって普通の子どものように勉強できる環境、手りゅう弾を手にとって戦うのではなくサッカーボールを蹴って遊べるような環境をつくりたいです。この問題の解決は、コンゴだけではなく、すべての人が取り組んでいく課題だと信じています。

カンボジア



ヨート・イェト

カンボジア事務所 職員

問題を解決するためにとっても重要なのは、お互いに助け合うことだと思います。私は、地雷を踏んで脚を失ってしまったとき、毎日、死にたいと考えていました。この世で生きていきたくないと考えていました。でも母や家族、お医者さんがこう言うってくれたんです。「絶対死んじゃダメだ。もう少ししたら助けてくれるNGOや助けてくれる人がいるから、絶対死んじゃダメだ」。だから私は生き続けることができました。助けてくれる人が周りにいたので、何とか生き延びることができたのです。日本の皆さまに、ぜひお伝えしたいことがあります。辛い思いをしている人、本当に死にたいと考えている人が自分の周りにいたら、助けてあげてください。助けてあげることができれば、必ずこの問題は解決できると考えています。

日本(岩手)



鈴鹿達二郎

岩手事務所 所長

毎週水曜日に木曜日に、刺し子製品の買取や、刺し子さん(刺し子商品を作成してくださる女性)たちの交流を目的にした「刺し子会」という会を開催します。刺し子さんは、この刺し子会を楽しみにしていらっしゃいます。80代の女性がおっしゃっていたのは「この刺し子と出会う前は、避難所や仮設住宅でこんなおばあちゃんがあることがないか、ただただ悩んでいました。手仕事が好きなので、作るのが本当に楽しくて、いただいたお金はそのままお嫁さんに渡すんです。そのお嫁さんの喜んでる顔を見るのが私の一番の喜び、家族の役に立つのが一番の喜びです」という言葉でした。このように80代のおばあさんでも頑張って、刺し子製品を作ってください。今後も一人ひとりの力を信じて、ご高齢であっても、その人自身が力を発揮できるような仕組みを作って活動を続けていきたいと思っています。

国際協力事業 アジア

2,316人

カンボジア事業では、地雷埋設地域において貧困層1,336人に村落開発支援を実施、小学校建設により630名の子どもたちが小学校に通えるようになりました。また、ラオス事業では、350名の不発弾汚染地域の子どもたちが中学校に通えるようになりました。

アジアでは、カンボジア北西部での地雷&不発弾撤去、地雷被害者支援や、ラオス、シエンクアン県での不発弾撤去と不発弾被害者の支援を行ってきました。

カンボジアでは、1979年から2013年3月までに64,241名地雷&不発弾被害者が記録されてきました。テラ・ルネッサンスでは、最も地雷被害の多いバタンバン州のタイ国境地域で、地雷撤去とともに地雷埋設地域に住む貧困層の支援を実施してきました。昨年は、カムリエン郡の3村で村落開発支援を実施し、収入向上支援、社会保障制度支援、基礎教育支援の3つの活動を実施し、村人たちが自立して活動し、生活していくことを目指して活動しました。

また、ラオスのシエンクアン県では、クラスター爆弾を始めとした不発弾被害者の調査や不発弾撤去団体の視察、2009年に建設したノンヘット郡カンパニオン村のプレマ・シャンティ中学校のモニタリング調査などを実施しました。

9 番目の家族の誕生

地雷が撤去されても残るいばらの道

2012年末、バン・ブンさんの家族に9番目の赤ちゃんが生まれました。ブンさんが地雷を踏んでから9年目のこと。元地雷原の中で生活するブンさん一家は、この村のなかでも最貧困層の家族で、住む家も土地も村人から借りて生活しています。

タイ国境の地雷ベルトのなかにある村は、この村だけで6,000個以上の地雷が撤去されました。ちょうど4番目の男の子が生まれた2か月後に、村で木を切っているとき、事故は突然起きました。その男の子は、2012年に9歳になりました。奥さんは赤ん坊の面倒に時間を割かれ、ブンさんは義足をはめて長時間の農作業は無理。ブンさんの3番目の女の子、サムペアさんは、「家族を助けたい」と、裁縫技術訓練を受けることを決意しました。彼女は、この村の技術訓練生のなかで最年少の16歳です。一家が協力して、いばらの道の一步を歩み出したところです。



カンボジア 地雷被害者のバン・ブンさん

800,000 リエルで子どもの命を守る

自治の仕組みを動かす村人たち

昨年大流行したデング熱では、カンボジア全体で189名の子どもが亡くなりました。マラリアと違って特効薬のないデング熱は、子どもたちにとっては、体力を落とさないように治療を受けることで、助かる可能性が高くなります。近くに病院もない田舎の村では、治療を受けるためには、ある程度のお金が必要でした。

健康保険制度を運営するロカブス村の住民組織のリーダーたちは、昨年保険を適用した6人のうち、普通の発熱などには50,000リエル(約12.5ドル)を適用していましたが、デング熱にかかったターさんの息子へは、命にかかわるということで、村人たちにとっては大金の800,000リエル(200ドル)を提供したのです。適切な治療が受けられなかった他の農村の村では多くの子どもたちが亡くなる中、この保険によって点滴を受けることができたターさんの子どもは回復しました。自治の仕組みが少しずつ回り始めているところです。



病気になる子どもの治療費の保険を申請する村人

186 名の犠牲者

数字の奥にあるライフストーリーを想像する

2012年1月-12月までの1年間のCMVIS(カンボジア地雷不発弾被害者情報システム)に記録されたカンボジアの地雷&不発弾犠牲者数が発表されました。186名という数字は、2011年の211名から12%減少し、CMVISが1979年からデータを収集し始めて以降、最低の数字です。186名のうち、35.48%にあたる66名が地雷の犠牲者で、64.52%にあたる120人が不発弾による犠牲者です。また、23.11%にあたる43人が事故によって死亡し、119名(63.97%)が負傷、24名(12.90%)が地雷や戦争残存物によって四肢を切断せざるを得なくなりました。これらの数字の向こうには、地雷の事故によって、大切な家族を亡くしたり、手足を失った人たちの深い悲しみを生んだ一人一人のライフストーリーがあることを忘れてはいけません。数字の奥にある犠牲者の痛みまで、想像してほしいと思います。



プレア・フット村の地雷被害者ブオンさんの家の近くで
2013年2月にも地雷事故が起きた

1

カンボジア地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域の貧困削減をし、地雷被害者や、元子ども兵、小型武器の被害者を含む戦争被害者が、自立して生活できるようにサポートをするとともに、新たな地雷&不発弾事故を防止する。		
事業地域	カンボジア王国バタンバン州	受益者数(累計)	約400家族
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の村人、地雷被害者、障害者	事業実施期間	2006年10月～継続中【継続中】

プロジェクト成果

地雷撤去団体MAGの地雷撤去が終了もしくは継続中の村で、次の地雷事故に遭う可能性の高い貧困層や地雷被害者などの戦争被害者を中心に住民組織を設立し、収入向上支援活動、社会保障支援活動、教育支援活動の3つの活動を実施している。最終的にこの村落開発支援は、村人たち自身が参加をし、自らが行動し、実施していくものである。

2012年は、ロカブス村で収入向上支援として裁縫技術訓練を7名に実施した。その後、プレア・プット村で6名の貧困層へ裁縫技術訓練と伝統衣装の製作訓練を実施している。最貧困層の2家族へ

養豚支援を実施した。社会保障制度支援活動では、それぞれの村で小規模融資制度、健康保険制度の仕組みを村の住民組織が運営している。基礎教育支援活動では、ロカブス村小学校に図書室を設置し、貯水タンクを設置することでトイレが使用可能となった。教員用宿舎を建設し、新しく派遣された先生が村に滞在することで授業が実施されるようになった。プレア・プット村でも貯水タンクを設置することで、トイレが使えるようになり、また、長崎の時津小学校との手紙の交流をしている。

2

カンボジア地雷撤去支援プロジェクト

事業の目的	カンボジア北西部地域において、地雷&不発弾による2012年までに「犠牲者ゼロ(Zero Victim)」、2015年までに「汚染影響ゼロ(Impact Free)」を目指し、貧困地域の開発支援へとつなげる。		
事業地域	カンボジア王国北西部地域	受益者数(累計)	—
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む村人	事業実施期間	2001年～継続中【継続中】

プロジェクト成果

2005年よりテラ・ルネッサンスが提携する地雷撤去団体MAGへ地雷撤去活動費を提供している。2009年に最新の金属探知機提供などの撤去に必要な機材をMAGへ提供している。2012年は、機械チーム“タント”の運営費1年分をMAGへ提供した。



地雷撤去団体MAGの機械チームが使用するコマツ製“タント”

3

カンボジア地雷埋設地域クメール伝統音楽復興&継承プロジェクト

事業の目的	地雷被害者を含む演奏技術を持つ貧困層による楽団を結成することで、伝統音楽活動を通じた収入向上活動、貧困削減を達成する。楽団の結成による伝統音楽の再興と、結成した楽団メンバーが、地域の子どもたちに伝統楽器の演奏技術を教えることによって、次世代の演奏家を育成し、伝統音楽が次世代に継承されていくことを目指す。		
事業地域	カンボジア王国オッチョンボック村	受益者数(累計)	約40人
受益者カテゴリー	オッチョンボック村貧困層	事業実施期間	2010年～2012年【完了】

プロジェクト成果

地雷埋設地域にあるオッチョンボック村で、2011年に地雷被害者を含む演奏技術を持つ貧困層による楽団を結成し、結婚式などでの演奏により収入向上支援を実施した。そして、楽団の結成による伝統音楽の再興と、結成した楽団メンバーが、地域の子どもたちに伝統楽器の演奏技術を教えることによって、次世代の演奏家を育成し、継承している。2012年10月にジュニア楽団を村に結成し、演奏会を開催した。



クメール伝統音楽の継承で、村の子どもたちに教える楽団のメンバー

4

カンボジア地雷埋設地域学校建設プロジェクト

事業の目的	カンボジア北西部地雷埋設地域における教育環境の整備と就学適齢児童への初等教育の機会の提供/カンボジア北西部地雷埋設地域の識字率の向上と貧困削減		
事業地域	カンボジア王国北西部地域	受益者数(累計)	約650人
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む小学生	事業実施期間	2008年～継続中【継続中】

プロジェクト成果

カンボジアで最も地雷に汚染された地域で、地雷撤去後の土地に小学校を建設している。これまで、バタンバン州、パイリン特別市で3校の小学校を建設している。2012年は、ブオ・ソクリアチ村小学校の各教室と教員用宿舎へセラミック水濾過器を提供し、衛生的な水を飲めるようになった。また継続して図書室の司書、幼稚園教員2名への給料を提供することで、教育の質が向上している。



ロカブス村の小学校の図書室でクメール語の絵本を初めて読む子どもたち

国際協力事業 アフリカ

1,665人

ウガンダ事業では、これまで149名の元子ども兵及びその家族を含む紛争の被害を受けた人々、計954名への支援を行ってきました。また、コンゴでは元子ども兵や孤児、性的暴力の被害を受けた女性、最貧困層、計711名への支援活動を行うことができました。

アフリカでは、ウガンダ北部と隣国のコンゴ民主共和国東部で、元子ども兵や紛争被害者への支援を行いました。

ウガンダ北部では、1986年以降の紛争で、6万6千人もの子どもたちが、反政府軍に誘拐され兵士として戦いに駆りだされてきました。村々に帰還した後も、身体的な傷だけでなく、心にも大きな傷を負っています。また、小学校も卒業していない元子ども兵たちが生活を再建することは簡単なことではありません。これまで、多くの元子ども兵達がテラ・ルネッサンスの社会復帰支援センターを経て社会復帰してきましたが、第5期生38名は、昨年、職業訓練や基礎教育を修了し、今年、その技術を使って自らの力で生活再建に向けて歩んできました。

また、コンゴ(民)東部の南キブ州では、対象地域12カ村において受益対象者が、BHN(人間としての基本的なニーズ)を満たすことをめざして、自給食料を生産するための支援やカウンセリング、職業訓練などの活動を行いました。

6500円の価値

元子ども兵が一家の大黒柱に

「6500円」。この額は、自立し始めたウガンダ北部の元子ども兵(第5期生)の平均月収です。日本では高校生でも一日働けば稼ぐことのできる金額です。しかし、現地の公務員の給与は約7000円程度です。かつて、心に傷を負い、自らの食べるものさえ、他人に頼らなければ生きることができなかった元子ども兵達が、今はこの6500円を使って、自ら生活だけでなく家族や親戚の生活を支えています。

中には近隣で貧しい生活を送っている人々を支援している元子ども兵もいます。帰還した当時、周囲の住民からお荷物扱いされたり、差別や偏見、また、憎しみの対象とされてきた元子ども兵達は、近隣住民との相互扶助の活動(昔ながらの近隣住民同士が困った時に助け合う習慣)に参加することができるようになりました。



社会復帰に向けて自らの洋裁店を開店した元子ども兵(ウガンダ北部)

7年間の変化

支援を受けた元子ども兵が支援をする側に

あるウガンダ北部の元少年兵(ジョセフ)に出会ってから7年が経ちました。わずか8歳の頃に誘拐され、8年間、兵士として戦わされた彼は、帰還後、足に障害を負い、両親は既に他界し、親戚とともに暮らしていました。そんな時、テラ・ルネッサンスの社会復帰支援センターにやってきました。受け入れ当時、自信なさげに戸惑っていた彼が、1年半後には、洋裁と服飾デザインの技術を身につけて洋裁店をグループで開きました。障害を負った片足を引きずりながら毎朝、誰よりも早く店に出て開店準備をしていました。3年後には、彼を指名して注文に来る常連のお客さんが50人を超えました。そして、今では近隣の貧困層の住民を雇えるようにまくなりました。同時に、自分の生活を安定させた彼は結婚し、子どもも生まれ、幸せな家庭を築くこともできました。そして、7年目の今年、彼は、かつての自分と同じ境遇にいる第5期生の元子ども兵たちに服飾デザインの技術を教えてくれています。



かつての自分と同じ境遇の元子ども兵に対して、洋裁と服飾デザインの技術指導をするジョセフ(ウガンダ北部)

1つの技術

地域の人に喜ばれ、誇りを持てる仕事

コンゴ東部の元子ども兵が習得した「1つ」の技術が地域住民の生活を変えました。それは溶接の技術です。鉄製の頑丈なドアや窓枠の修理は、武装勢力の襲撃や略奪が続く村々の住民にとって欠かせない製品やサービスでした。しかし、これまでは、武装勢力の活動地域を通過して溶接技術者のところまで行かなければならない状況でした。しかし、今は元子ども兵達はその技術を身につけて村人の生活を支えることができるようになりました。

かつては村に戻っても、お荷物扱いされたり、自分の存在意義すら感じられなかった彼らが、今、地元の人々にとって役に立つモノやサービスを提供することができるようになったのです。自尊心を回復し、自らの仕事に誇りを持って働いてくれています。



鉄製の窓枠の注文を村人から受けて共同で製作する元子ども兵の受益者たち(コンゴ東部)

1

コンゴ東部地域における元子ども兵及び紛争被害者エンパワメントプロジェクトフェーズII

事業の目的	元子ども兵及び紛争被害者がエンパワメントされ、BHN(人間としての基本的なニーズ)を満たして生活できるようになる。		
事業地域	コンゴ民主共和国、南キブ州、カレヘ行政区、カロンゲ区域	受益者数(累計)	直接受益者:711名 間接受益者:直接受益者の家族及び近隣の貧困層住民 約2000名
受益者カテゴリー	元子ども兵/紛争被害者(性的暴力の被害女性、孤児、最貧困層住民)	事業実施期間	2009年6月～継続中【継続中】

プロジェクト成果

元子ども兵及び性的暴力を受けた女性などの紛争被害者が、BHN(人間としての基本的なニーズ)を満たすための自給食料を確保することができました。

当初、各グループが昨年度の収穫物から種子を確保して、栽培を開始しましたが、2012年に入り、治安が悪化し、4カ村のグループは一時的に避難を繰り返さざるを得ない状況となりました。以前から活発に活動していた武装勢力(FDLR)に加えて、それに対抗する地元の武装グループ(ライア・ムトンボキ)が子どもを徴兵し、武力闘争を開始したことで、住民への襲撃なども頻繁に行われるような状況に陥ったからです。(住民への襲撃を行っていたのはFDLR)。

避難を余儀なくされた4カ村のグループと、避難先の4カ村のグループに対しての支援を強化することで、最終的に、全員が自給食料を確保することができました。

たとえば、避難民を受け入れている村の一つ、ルシェニ村では、芋の生産が販売用に回せるだけの収穫があり、それらを避難してきた

他のグループの人々へ分配しました。その為、現金収入は得ることができませんでしたが、魚の養殖用の「ため池」の整備を進めました。

また、チョロベラ村やマルンデゥ村でもカッサバを栽培し始めましたが、武装勢力の活動が活発になり、治安悪化により避難せざるを得ない状況になっていました。避難は一時的で、現在は既に地元の村に帰還していますが、避難中は他の村のメンバーからの協力と追加の支援によって衣食住は満たすことができました。

チギリ村も一時的に避難を強いられましたが、帰還後、ため池の整備と共に農作物の栽培も順調に進めています。ため池は既に4つが完成しており、栽培したカッサバも自給用以上の収穫をすることができました。その後、他のグループからの避難民も受け入れて支援すると共に、余剰作物を販売し現金収入を得ることもできました。その収益でキャベツの種子を購入し、現在、キャベツ栽培も行っています。



左：「自給食料を確保する為の活動」において、完成した養殖用のため池(南キブ州、カロンゲ区域)
右：武装勢力の影響を受けながらも自立に向けて洋裁店を開いた紛争被害者と当会創設者の鬼丸



2

不法小型武器問題啓発プロジェクト

事業の目的	不法小型武器の蔓延がコミュニティーに悪影響を与えることを一般住民に啓発すること
事業地域	ウガンダ共和国、カンバラ市
受益者カテゴリー	一般市民
受益者数(累計)	—
事業実施期間	2005年2月～継続中【継続中】

プロジェクト成果

ウガンダの市民社会組織(ウガンダ小型武器行動ネットワーク(UANSA))が中心となり、不法小型武器の問題を一般市民へ啓発するための活動(セミナーの開催)を支援することができました。



6月の小型武器週間にあわせて小型武器被害者を訪問するUANSAのメンバー。メディアを通して一般市民に不法小型武器問題を啓発する機会となった。

3

ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト

事業の目的	元子ども兵が社会復帰する為に必要な能力を身につけ経済的に自立すると共に地域住民との関係を改善しながらコミュニティーで安心して暮らせるようになる。
事業地域	ウガンダ共和国、グル県、アムル県、キトグム県、パデー県
受益者カテゴリー	元子ども兵及び最貧困層住民
受益者数(累計)	954名(内、元子ども兵は149名)
事業実施期間	2005年5月～継続中【継続中】

プロジェクト成果

今年度、第6期生20名(反政府軍に誘拐され兵士として戦わされてきた元子ども兵)に対して、職業訓練、基礎教育、平和教育、心理社会支援、BHN(食費・医療費等の)支援などを行うことができました。2013年2月には、彼女らが訓練で得た技術を使って自らで収入を得る為の計画を策定し、それに併せて木工用具や洋裁道具、小規模融資を提供しました。現在、19名が自らの力で収入を得ることができるようになっています。

また、前年度にフルタイムの訓練を修了し、今年、生活再建のための支援を行ってきた第5期生の元子ども兵たち38名は、現在、現地の公務員と変わらないだけの月収を得ることができるようになりました。



左：木工大工の職業技術の習得に励む第6期生の元子ども兵たち
右：国連平和の日に「平和の鳩」掲げてパレードするテラルネッサンスで社会復帰に取り組む元子ども兵たち



東日本大震災における
被災者支援
「ともつな基金」事業
日本

127人

大槌復興刺し子プロジェクトでは、これまで127名の刺し子さん(刺し子を活用した商品の制作にかかわる方)に、Tシャツやふきん、コースターなどの商品制作代金をお支払いしました。



Photo : t.koshiba

岩手県上閉伊郡大槌町において、日本に昔から伝わる手仕事の1つである「刺し子」を活用した商品の企画・制作・販売を行う、大槌復興刺し子プロジェクトを運営しています。

商品の制作にかかわる刺しさんは、20代から80代までの幅広い年齢層に及び、その中心となっているのは、中高年の女性の方々です。商品の買取、材料の配布、商品化作業を行う「刺し子会」を毎週開催し、商品制作に必要な技術を学ぶ「技術講習会」、刺し子さん同士や、刺しさんと現地を訪問された方々の交流の場としての「お茶っこの会」を随時開催しています。また商品は、インターネットや各地のイベント、店舗で販売しています。

テラ・ルネッサンスの活動理念である「私たちは一人ひとりに未来をつくる力があることを信じ、市民の可能性を追求しています」に基づき、東日本大震災から10年後の2021年までに、テラ・ルネッサンスから独立採算による別法人化を果たし、現地職員と地元住民による地域主体の運営を目指します。

10倍の価値があるもの 刺し子で幸せな時間

「うれしい、今日は3万円稼いだ〜！」この言葉は、「刺し子会」で、商品の検品が終わって、ある刺し子さんに3,000円をお渡ししたときに出た言葉です。「刺し子でもらうお金は、自分で一針一針縫いあげたものだから、私にとって10倍の価値がある。たくさんは縫えないけど、夜に落ち着いて刺し子をする時間が本当に幸せ」。その刺し子さんの刺し子はとても丁寧で、大切に縫ってくださっていることがわかります。こんなに心を込めて、気持ちよく縫っていただいていることがとても嬉しく、いつもありがたいと思います。



100日間の刺し子会 みんな一緒に泣いたり笑ったり

刺し子会は午前中から始まります。毎回刺し子会を楽しみにして、刺し子さんたちがいらっしゃいますが、時々、午前10:00時開始のところを、9:30頃に来られる方もいらっしゃいます。2012年度は岩手県遠野市の現地事務所から大槌町に通っていた時期もあり、到着したときには何分お待たせしていたことも。スタッフが「すいません、お待たせしまして」とお伝えすると、「いやー、早く来ちゃったねー」と元気づけおっしゃっていただき、少し早い刺し子会が始まります。

2012年度に行った「刺し子会」の日数は、ちょうど100日間になりました。お盆と年末年始はお休みしましたが、毎週水曜日と木曜日に「刺し子会」を行い、たくさん刺し子さんたちが来てくださいました。刺し子さんは、お話しや作業をしながら笑ったり、時には泣いたりと一緒に過ごしてきました。一日も同じ日はなく、100通りの刺し子会がありました。80代の刺し子さんは、「毎週刺し子会があるから、はりあいができるね。今日は何曜日だから、次の刺し子会まで何日だって。毎日何もすることがないと、曜日もすっかり忘れてしまうから(笑)」とおっしゃっています。スタッフも刺し子さんから元気をいただいています。



Photo : t.koshiba



332枚の材料配布 一枚一枚異なるストーリー

「この刺し子さんのお好きな商品は何だったか?」「最近、ご無理されていないかな?」「楽しんで刺し子をしてくださっているかな?」こんなことを常に考えながら、刺し子さんたちに材料の配布をしています。2013年3月の第4週目には、年間最高となる、332枚を31名の刺し子さんに配布し、商品の制作をお願いしました。お配りした材料は、刺し子さんの手で、一枚一枚すべて異なったストーリーが刺され、お客様のお手元に届けられます。



Photo : t.koshiba

1

大槌復興刺し子プロジェクト

事業の目的	刺し子商品を企画・販売し、東日本大震災で被災された方々への商品制作代金の支払いを通じて、生活再建を促進する。また、商品制作にあたり技術講習会などを通じ、被災された方々の相互交流を活性化させ、心理的社会的負担の軽減を図る。 継続的な「刺し子」による手仕事の提供、地元人材の雇用創出、及び事業を通じた訪問客等による地域活性化への貢献のため、東日本大震災から10年後の2021年までに、NPO法人テラ・ルネッサンスから、独立採算による別法人化を果たし、現地職員と地元住民による運営を目指す。		
事業地域	日本	受益者数(累計)	127名
受益者カテゴリー	東日本大震災の被災地域の女性	事業実施期間	2011年6月～継続中【継続中】

プロジェクト成果

2011年に発生した東日本大震災による被害を受けた岩手県上閉伊郡大槌町を中心として、これまでに主に中高年の女性127名に、技術指導講習会を行い、「刺し子」という手仕事の技術を使った商品制作していただいた。これにより制作した「刺し子」を累計12,234,400円で買い取り、作り手の生活再建の一助となった。現金収入以外でも、毎週2日間開催する「刺し子会」では、作り手の女性たちが集まり、交流の場、またお互いの技術を向上する場となっている。商品制作することと、また「刺し子会」による交流により、作り手の方々の生き甲斐が生まれてきている。これまでの商品販売枚数は24,112枚、売上は30,382,974円となり、今後独立して運営するための運営基盤の強化を行っている。また、非常勤職員として地元住民2名を採用し、雇用を創出している。



photo : t.koshiba

IT人材育成支援事業

2012年10月より、大槌町の現地企業に職員1名が出向し、電子書籍化事業と東日本大震災アーカイブ事業のマネジメントを行いました。電子書籍化事業では、岩手県釜石市及び大槌町の住民の方70名に校正の仕事を依頼し、150万ページの論文の電子化を行いました。

東日本大震災アーカイブ事業では、総務省「東日本大震災アーカイブ基盤構築事業」の一環として、デジタルアーカイブ構築・運用に関する実証調査を行いました。2013年3月7日には、東日本大震災に関する音声・動画、写真、ウェブ情報等のデジタルデータや、関連する文献情報を一元的に検索・活用できるポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(愛称:ひなぎく)」が公開されました。

ひなぎく <http://kn.ndl.go.jp/>



情報共有会

大槌町内で活動している団体の情報を共有する場として、2012年11月より隔週で、情報共有会を開催しています。参加団体は常時15～20団体で、団体間や大槌町役場を含めた協働が生まれています。





13,647人

啓発事業
人材育成事業
日本

めぐるプロジェクト及びキフ★ブックへの参加者707名、本やウガンダコーヒーといったテラ・ルネッサンス関連商品の購入者339名、カンボジアスタディツアーへの参加者6名、講演会への参加者12,600名のほか、22名をボランティア、インターンとして受け入れました。

現場での支援はもとより、現場で起こっている問題の根本的な解決を目指すテラ・ルネッサンスでは、一人でも多くの方に、テラ・ルネッサンスが取り組む課題、そしてその課題解決に向けた取り組みを知っていただくため、日本国内での啓発活動に取り組んでいます。

書き損じハガキや使用済みインクカートリッジ、不要になった携帯電話、古本を集めて支援する、めぐるプロジェクトやキフ★ブックへの参加呼びかけを行うとともに、書籍、講演DVD、活動内容を視覚的に見ることができるマンガ、ウガンダコーヒーの販売も行っています。五感で現地をフルに感じるスタディツアーを開催し、イベントや活動報告会では活動内容の紹介を行い、講演会の講師として日本各地を訪れています。

また、啓発活動を行う上で重要な平和の担い手を育成するため、人材育成(ボランティア、インターンの受け入れ)も行っています。

3枚の500円玉

小学3年生 はじめての国際協力

「ぼきん」と書かれた封筒からこぼれ落ちたのは、3枚の500円玉。さらに、段ボール箱いっぱいのインクカートリッジやハガキが「ウガンダの人たちの力になれたらうれしいです」という手紙とともに届きました。講演を聞いた大阪の小学3年生の子どもたちが、自分にできることを一生懸命に考えて、家族を巻き込み、家中探し回って集めてくれたのです。ある子は手紙には「わたしは世界のみながへいわで、なかよくらせる地球にしたいと思っています」書いていました。一歩を踏み出すことの大切さを、ひたむきに平和を願う子どもたちの姿から教わりました。



小学3年生初めての国際協力

23名の人財

高校生や海外からもボランティアを受け入れ

2012年度は、過去最高人数となる23名の人財と出会うことができました。初めての試みとして、職業体験の高校生ボランティアを受け入れたり、アメリカ人女性の短期ボランティアの受け入れを行いました。韓国、ドイツからのインターンも加わり、年齢も国籍も関係ない「つながり」がさらに強くなった2012年とも言えます。



左：ボランティア体験後カンボジアスタディツアーに参加した高校生



右：ボランティアとして活動に協力して下さったアメリカ人女性(写真中央)

45名のボランティア

可能性が広がる人と人とのつながり

2012年 Panasonic NPO サポートファンド for アフリカの助成を受け制作したDVD「250,000 チャイルドソルジャーが見た夢」。子ども兵の現実と、元子ども兵の希望を伝えるべく、音楽やナレーションなど、45名ものボランティアとともに制作しました。人と人がつながりあうことで可能性が広がることを、改めて教わった取り組みとなりました。



DVD制作の様子



1人のつながり

ボランティアさんからのプレゼント

花王ハートポケット倶楽部さまより、カンボジアでの地雷埋設地域村落開発プロジェクトに、40万円のご寄付をちょうだいしました。このきっかけをつくってくれたのは、学生時代にカンボジスタディツアーやイベントでのボランティアに参加していた西田喜美代さん。学生時代のつながりが、社会人になった今でも「つながり」として活かされることに、感謝の気持ちでいっぱいです。

花王 ハートポケット倶楽部



6年ぶり4団体目

2012年度国際交流基金地球市民賞受賞

京都府内の団体としては、6年ぶりの受賞となった国際交流基金地球市民賞。同じ地球の上に住む人間の一人として、国や文化を越えた「地球市民」として、それぞれの社会や地域の困難な課題をともに考えながら、互いの知恵、技術、情報を分かち合って解決していこうという姿勢が高く評価されました。この受賞をきっかけに、活動のさらなる飛躍を目指します。



35回の訪問

「テラ・ルネッサンス千葉」の設立

「千葉で、テラ・ルネッサンスを応援する組織をつくりましょう」。横山英樹さん(NPS成田予備校代表取締役)の一言から、テラ・ルネッサンス千葉の設立に向けて協力者を募り始めました。千葉県内のさまざまな場所を訪れ、講演を行ったところ、地方からテラ・ルネッサンスを応援するという理念に共感が集まり、3月27日のテラ・ルネッサンス千葉設立式典には、約70名の方が集結。千葉県からテラ・ルネッサンスを応援する力強い風が吹いています。



10分間のアニメーション映画

「NINJA&SOLDIER」が伝える子ども兵の悲しみ

鬼丸の講演を聞いて衝撃を受けたプロデューサーの袋康雄さんが、平林勇監督とともに制作した10分間の短編アニメーション映画「NINJA&SOLDIER」。コンゴ民主共和国の子ども兵と、忍者ごっこに興じる日本の子どもを対比し、残虐な行為をさせられる子ども兵の悲しみ、人間の差別意識などを描き出した本作品は、ベルリン国際映画祭に出展、ノミネート作品となりました。現在、日本各地で上映会が開催され、見る者すべてに衝撃を与え、静かな反響を巻き起こしています。



啓発事業・人材育成事業：日本

プロジェクト成果

	キフ☆ブック	募金箱	物品
事業の目的	身近な国際協力をテーマに、古本やCDを集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示し、関心を集めるとともに資金を調達する。	お店や企業内での募金箱の設置を通して、活動の啓発を行うとともに、活動を行うための資金を調達する。	書籍やコーヒーなどの商品の購入を通じて、テラ・ルネッサンスが取り組む課題、活動への理解を促し、関心を集める。
	参加者数(累計) / 224名・団体	—	購入者数(累計) / 339名・団体
			

	講演・イベント	パネル	人材育成
事業の目的	講演やイベントへの参加を通して、取り組む課題、活動への関心を集める。	子ども兵や地雷の写真パネルを通じて、取り組む課題、活動への関心を集める。	大学生や社会人を主な対象として、次世代の平和の担い手となる人材を育成する。
	参加者数(累計) / 12600名	—	参加者数(累計) / のべ22人(2012年度) ※外国人ボランティアを除く
			

	meguru project	スタディツアー
事業の目的	身近な国際協力をテーマに、普段捨てられてしまうもの(書き損じハガキ、使用済みインクカートリッジ・携帯電話)を集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示し、関心を集めるとともに資金を調達する。	会員を対象に、地雷、小型武器、子ども兵の問題について様々な角度から学習をし、現地での体験を様々な形で伝える人材を育成する。また、活動地に赴くことで、テラ・ルネッサンスの支援状況を視察する。
	参加者数(累計) / 483名	参加者数(累計) / 6名 ※実施地 カンボジア
		



126回

平和セミナー(講演)は、紛争に関する事実を伝え、私たちが争いのない社会をつくるために、何ができるのかを考える“場”です。さまざまなデータ、体験に基づいてお話をしています。どんな活動でも、第一歩は「事実を知ること」から始まります。学校の総合学習、行政の国際理解研修、企業の社員研修など、さまざまなところで講演をさせていただいています。「わかりやすい」「自分にできることから始めたい」など、多くの方にご好評いただいています。2012年度は5名の講師による講演会を126回実施しました。

講演実績

企業	医療法人社団恵心会京都武田病院 Institution for a Global Society株式会社 オムロン株式会社 株式会社沖縄タイムス社 株式会社デミック 株式会社ヒトミ 株式会社ワイズ 近畿労働金庫 昭和グループ 水戸ヤクルト販売株式会社
教育機関	大谷学園 京都大学 京都女子大学 熊本県立大学 奈良県立大学 武蔵野学院大学 横浜国立大学 横浜市立大学 立命館大学 立命館大学VCTP 龍谷大学 早稲田大学マニフェスト研究所人材マネジメント部会 大阪暁光高等学校(千代田高等学校) 大阪府立佐野高等学校 学校法人三幸学園飛鳥未来高等学校 関西インターナショナルスクール 埼玉県立川越女子高等学校 埼玉県立川越西高等学校 奈良県立奈良情報商業高校 宮城県立富谷高等学校 宇治市立西小倉中学校 香芝市立香芝中学校 学校法人越原学園名古屋女子大学中学校 亀岡市立亀岡中学校 京都教育大学附属桃山中学校 京都産業大学附属中学校 京都市立朱雀中学校 京都市立西陵中学校 郡上市立郡南中学校 島根大学教育学部附属中学校 高島市立高島中学校 立川市立立川第八中学校 枚方市立招堤中学校 枚方市立長尾中学校 松江市立湖南中学校 箕輪町立箕輪中学校 金沢市立明成小学校 吹田市立千里第一小学校 杉戸町立杉戸第二小学校 東大阪市立荒川小学校 東大阪市立長瀬南小学校 港区立青南小学校
行政	青森県庁(あおもり立志挑戦塾) 沖縄県自治研修所熊本県庁 京都府(知事と和いミーティング) 熊本県庁私学振興課 熊本市役所 財団法人全国市町村研修財団 中野区役所 東近江市人権課 東大阪市役所人権推進課 箕輪町役場 三次市役所 湯浅町役場
団体	潮来市倫理法人会 印西市倫理法人会 魚沼市倫理法人会 大阪北ロータリークラブ 鬼丸昌也講演会in agato 柏の葉倫理法人会 香取市倫理法人会 京都織物卸商業組合青年部会 京都市南ロータリークラブ 熊日女性の会(熊日サービス開発株式会社) 公益財団法人京都地域創造基金 公益財団法人日本財団 コープかかわ 互敬塾 財団法人日本青少年文化センター 児童労働ネットワーク 社会福祉法人大阪ボランティア協会 社団法人貝塚青年会議所 宗教法人立正佼成会京都教会 宗教法人立正佼成会立川教会 宗教法人立正佼成会西日本教区 宗教法人立正佼成会前橋教会 宗教法人立正佼成会山口支教区 白井市倫理法人会 政経倶楽部千葉県支部 匠瑳市倫理法人会 袖ヶ浦市倫理法人会 館山市倫理法人会 千葉市美浜区倫理法人会 千原倫理法人会 銚子市倫理法人会 銚子東ロータリークラブ 銚子ロータリークラブ 東金市倫理法人会 特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 特定非営利活動法人ユースビジョン 独立行政法人国際協力機構 豊田市環境学習施設eco-T 習志野市倫理法人会 成田コスモポリタンロータリークラブ 成田市倫理法人会 日本環境教育フォーラム 株式会社 福祉保育労働組合中京支部 盛岡市倫理法人会 八街市倫理法人会 loveamori プロジェクト

主催イベント

- 04月11日(水) 第12回テラ・カフェ(私たちが持つ「子ども兵士」への偏ったイメージ「かわいそうな子ども兵士?」「アフリカの子ども兵士?」)
- 05月09日(水) 第13回テラ・カフェ(アフリカに戦争がなくならないのは?)
- 06月13日(水) 第14回テラ・カフェ(ラオスについて知ろう!~ラオスのクラスター爆弾の問題を通して、平和を考える)
- 06月16日(土) 総会記念イベント(テラ・ルネ2012アジアからアフリカ、東北へ)(京都)
- 07月11日(水) 第15回テラ・カフェ(小型武器の最大の被害者は軍人ではない!? ~小型武器問題の現状と解決方法を考えていこう)
- 08月08日(水) 第16回テラ・カフェ(アフリカのエイズ問題 ~セネガル青年海外協力隊での経験から~)
- 09月12日(水) 第1回テラ・スタイル東京(テラ・ルネッサンス活動説明会)
- 09月19日(水) 第17回テラ・カフェ(ウガンダ事業視察報告会~インターンが見たウガンダと元子ども兵社会復帰プログラム~)
- 10月07日(日) 大槌復興刺し子プロジェクト感謝祭(1周年記念イベント・報告)(東京)
- 10月09日(水) 第2回テラ・スタイル東京(テラ・ルネッサンス活動説明会)
- 10月10日(水) 第18回テラ・カフェ(コンゴ民主共和国視察報告)
- 11月10日(土) テラ・ルネッサンス世界会議 東京大会(今こそ、ひとに寄り添う勇気を~テラ・ルネッサンスらしい支援のありかたを探る)(東京)
- 11月14日(水) 第3回テラ・スタイル東京(テラ・ルネッサンス活動説明会)
- 11月17日(土) テラ・ルネッサンス世界会議 京都大会(京都)
- 12月08日(土) 脳の特性と1枚の文法シートで楽しく話せる英会話練習会(講師:井上知氏)(京都)
- 12月12日(水) 第19回テラ・カフェ(『250000 ~チャイルドソルジャーが見た夢~』上映・報告会)
- 01月09日(水) 第20回テラ・カフェ(ウガンダ北部紛争の背景)
- 02月10日(日) 「こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した ~未来を創るのは自分自身~」(岩手)
- 02月13日(水) 第21回テラ・カフェ(カンボジアパーチャルスタディツアー)
- 03月13日(水) 第22回テラ・カフェ(テラ・ルネッサンスでのインターンを通して考えたこと)
- 03月24日(日) 『ぼくは13歳 職業、兵士。』~テラ・ルネッサンス活動報告会/短編映画『NINJA&SOLDIER』日本初上映~(東京)
- 03月24日(日)~03月31日(日)カンボジアスタディツアー



各種イベントへの参加

- 06月02日(土) 児童労働反対世界デーキャンペーン2012(主催:児童労働ネットワーク)
- 06月23日(土) チャリティバドミントン大会(主催:頑張らないバドミントン研究会)
- 09月09日(日) チャリティバザー(主催:宗教法人松緑神道大和山)
- 09月16日(日) 国際協カステーション(主催:財団法人京都府国際センター)
- 10月28日(日) 京都ヒューマンフェスタ(主催:京都府)
- 02月02日(土)~03日(日) ワン・ワールド・フェスティバル(主催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会)

メディア掲載 掲載総数:37件(重複を除く)

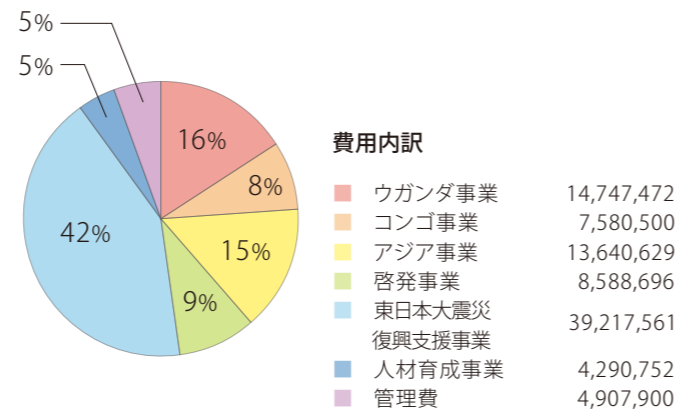
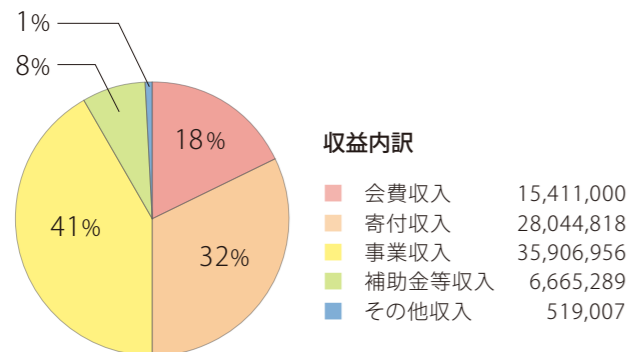
NHK テレビ岩手 NHKラジオ 三条ラジオカフェ J-WAVE 朝日新聞 毎日新聞 読売新聞 沖縄タイムス 岩手日報 河北新報 岐阜新聞 京都新聞 熊本日日新聞 東京新聞 オレンジページ sesame 中日新聞朝刊折込ショッパーNAT's特別版 マ・シェリ

会計報告

2012年度収支計算書並びに2013年度収支予算書

(単位:円)

I 経常収入の部	2012年度 予算	2012年度 決算	2013年度 予算
1. 会費収入	15,000,000	15,411,000	15,411,000
2. 寄付収入 一般寄付	10,000,000	14,911,004	14,911,000
アジア事業指定寄付(カンボジア・ラオス)	1,000,000	2,905,131	2,905,000
アフリカ事業指定寄付(ウガンダ・コンゴ民)	1,000,000	8,657,421	8,657,000
ともつな基金寄付	12,000,000	1,571,262	1,571,000
寄付合計	33,000,000	28,044,818	28,044,000
3. 事業収入 啓発事業収入	12,000,000	13,944,192	13,944,000
物品販売収入	30,000,000	21,962,764	26,400,000
事業収入合計	42,000,000	35,906,956	40,344,000
4. 補助金等収入	2,000,000	6,665,289	6,665,000
5. その他収入	100,000	519,007	519,000
経常収益合計	92,100,000	86,547,070	90,983,000
II 経常支出の部			
1. 事業部門 国内事業費 啓発事業	15,000,000	8,588,696	8,588,000
東日本大震災復興支援事業	36,006,055	39,217,561	39,217,000
人材育成事業	1,000,000	4,290,752	4,290,000
国内事業費計	52,006,055	52,097,009	52,095,000
海外事業費 ウガンダ事業	19,500,000	14,747,472	14,747,000
コンゴ事業		7,580,500	7,580,000
アジア事業		16,919,150	13,640,629
海外事業費計	36,419,150	35,968,601	37,031,000
事業部門合計	88,425,205	88,065,610	89,126,000
2. 管理部門 人件費	15,000,000	4,828,947	4,827,000
その他経費	18,000,000	78,953	78,000
管理部門合計	33,000,000	4,907,900	4,905,000
経常費用合計	121,425,205	92,973,510	94,031,000
当期経常増減額	▲29,325,205	▲6,426,440	▲3,048,000



監査報告書



国際協力事業費明細

(単位:円)

ウガンダ事業費		
BHN支援活動費	食費、医療費、家賃支援費など	2,851,208
能力向上支援活動費	職業訓練における教材費、指導員人件費など	4,855,431
心理社会支援活動費	ワークショップ開催経費、カウンセリングなど	1,803,111
収入向上支援活動費	教材費、小規模ビジネス指導など	1,294,309
不法小型武器問題啓発事業費	セミナー関係経費など	156,880
ウガンダ事業管理費	人件費、光熱費、施設管理費など	3,786,533
合計		14,747,472
アジア事業費		
カンボジア事業管理費	人件費、家賃、光熱費など	5,868,550
カンボジア地雷埋設地域村落開発支援事業費	■収入向上活動/プレア・ブット村裁縫技術訓練費、伝統衣装製作訓練費、養豚支援費など	1,705,646
	■社会保障制度支援活動/モニタリング調査費、人件費など	363,399
	■基礎教育支援活動/ロカブス村図書室設置費、教員用宿舍建設費、貯水タンク建設費、プレア・ブット村貯水タンク建設費など	1,999,574
カンボジア地雷撤去活動費	機械チームの運営費1年分	2,056,802
カンボジア小中学校建設費	図書館の司書、幼稚園の教員への給与や水ろ過器の購入費など	764,663
カンボジア伝統音楽復興&継承事業費	伝統音楽の演奏会の開催費、伝統音楽の講師への謝礼など	389,560
カンボジア啓発事業費	カンボジアスタディツアーに関する交通費など	246,965
ラオス不発弾撤去支援	不発弾撤去のラオスでのモニタリング調査時の費用など	46,010
ラオス被害者支援費	ラオスでのモニタリング調査時の費用など	77,954
ラオス中学校建設費	ラオスでのモニタリング調査費など	56,627
その他経費	義肢装具士養成学校、孤児院への謝礼	64,879
合計		13,640,629
コンゴ事業費		
食料の安全保障支援活動	自給食糧を確保するための活動/食料物資購入費、種子購入費、農器具購入費、物資運搬費など	1,761,701
収入向上支援活動	収入源を確保するための活動/職業訓練講師謝礼、職業訓練材料費、小規模店建設資材購入費、資機材運搬費など	1,612,086
心理社会支援活動	心理社会的な安定を促す活動/カウンセリング担当者人件費、スタッフ移動のための交通費など	854,707
子どもの保護支援活動	子どもの権利を守るための活動/基礎教育担当スタッフの移動費など	1,006,861
健康を維持するための活動費	BHN支援活動にて活用するパソコンに係る費用	17,691
コンゴ事業管理費	人件費、光熱費、施設管理費など	2,327,454
合計		7,580,500

活動計算書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常収支の部)		
I 経常収益		
1 受取会費	15,411,000	
2 受取寄付金	28,044,818	
3 受取助成金等	6,665,289	
4 事業収益	35,906,956	
5 その他収益		
(1)受取利息	6,882	
(2)雑収益	512,125	519,007
経常収益計		86,547,070
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費		
給料 手当	22,694,711	
雑 給	1,190,069	
法定福利費	2,690,667	
福利厚生費	739,738	
人件費計	27,315,185	
(2)その他経費		
売上原価	15,647,580	
通信費	2,070,425	
運送費	248,994	
荷造 運賃	417,053	
水道光熱費	1,036,632	
旅費交通費	14,369,142	
広告宣伝費	119,163	
接待交際費	463,459	
会議費	543,177	
支援物資費	8,991,986	
事務用消耗品費	1,060,861	
備品消耗品費	506,451	
新聞図書費	238,569	
印刷費	2,231,462	
修繕費	174,904	
地代 家賃	2,944,082	
保険料	536,342	
スタッフ研修費	213,732	
ボランティア活動諸経費	10,717	
販売促進費	1,822,353	
租税 公課	306,860	
支払報酬	2,256,102	
諸会費	145,372	
システム使用料	722,946	
支払手数料	848,700	
減価償却費	2,708,388	
雑費	103,319	
雑損失	11,654	
その他経費計	60,750,425	
事業費計		88,065,610

科 目	金 額	
2 管理費		
(1)人件費		
給料 手当	4,337,726	
雑 給	88,629	
法定福利費	338,070	
福利厚生費	64,522	
人件費計	4,828,947	
(2)その他経費		
通信費	423,214	
運送費	23,548	
水道光熱費	142,200	
旅費交通費	4,028,764	
広告宣伝費	17,437	
接待交際費	68,961	
会議費	112,613	
支援物資費	50,749	
事務用消耗品費	127,601	
備品消耗品費	52,924	
新聞図書費	81,223	
印刷費	410,668	
修繕費	100,082	
地代 家賃	431,996	
保険料	322,774	
スタッフ研修費	33,860	
租税 公課	129,731	
支払報酬	307,892	
諸会費	34,501	
システム使用料	167,879	
支払手数料	658,369	
減価償却費	144,730	
雑費	1,934	
雑損失	78,593	
その他経費計	7,952,243	
管理費計		12,781,190
経常費用計		100,846,800
当期経常増減額		△ 14,299,730
III 経常外収益		
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
1 過年度寄付金返金	1,000,000	
2 過年度助成金返金	1,228,671	
経常外費用計		2,228,671
税引前当期正味財産増減額		△ 16,528,401
法人税、住民税および事業税		70,000
当期正味財産増減額		△ 16,598,401
前期繰越正味財産額		49,778,300
次期繰越正味財産額		33,179,899

2012年度収益事業にかかる貸借対照表

2013年3月31日現在

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	15,079,172		
未収金	2,841,607		
貸付金	971,619		
商品	6,368,576		
前払費用	102,364		
仮払金	160,000		
流動資産合計		25,523,338	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
建物	4,432,138		
車両運搬具	3,489,355		
什器備品	291,353		
土地	444,234		
有形固定資産計	8,657,080		
(2)投資その他の資産			
敷金	490,000		
投資その他の資産計	490,000		
固定資産合計		9,147,080	
資産合計			34,670,418
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1,377,195		
未払法人税等	70,000		
前受金	13,090		
預り金	30,234		
流動負債合計		1,490,519	
負債合計			1,490,519
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		49,778,300	
当期正味財産増減額		△ 16,598,401	
正味財産合計			33,179,899
負債及び正味財産合計			34,670,418

財産目録

2013年3月31日現在

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス
(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金 管理・国内事業 日本手許現金	784,706		
現金 啓発事業 日本手許現金	764,536		
現金 東日本大震災復興支援事業 日本手許現金	116,086		
外貨現金 管理・国内事業	118,862		
現金 アジア事業 手許現金	20,723		
現金 カンダ事業 手許現金	13,494		
郵便振替 管理・国内事業 テラ・ルネッサンス基金	29,043		
郵便振替 管理・国内事業 国際協力基金	1,682,293		
郵便振替 東日本大震災復興支援事業 ともつな基金	445,949		
郵便振替 啓発事業	318,895		
普通預金 管理・国内事業 ゆうちょ銀行	706,719		
普通預金 管理・国内事業 楽天銀行	2,647,115		
普通預金 管理・国内事業 近畿労働金庫	734,785		
普通預金 管理・国内事業 関西アーバン銀行	3,154,085		
普通預金 管理・国内事業 三井住友銀行	10,000		
普通預金 啓発事業 京都中央信用金庫	943,140		
普通預金 啓発事業 関西アーバン銀行	0		
普通預金 東日本大震災復興支援事業 ジャパンネット銀行	1,932,800		
普通預金 東日本大震災復興支援事業 ゆうちょ銀行	312,221		
外貨預金 アジア事業現地預金	327,901		
外貨預金 カンダ事業現地預金 (USD)	15,819		
未収金			
管理・国内事業	521,562		
啓発事業	46,230		
東日本大震災復興支援事業	2,273,815		
貸付金 カンダ事業 元子ども兵社会復帰支援	971,619		
商品			
啓発事業 期末商品棚卸高	1,784,890		
東日本大震災復興支援事業 期末商品棚卸高	4,583,686		
前払費用 東日本大震災復興支援事業 礼金償却残高他	102,364		
仮払金 管理・国内事業、東日本大震災復興支援事業 旅費交通費	160,000		
流動資産合計		25,523,338	
2 固定資産			
有形固定資産			
建物 スマイルハウス (カンダ事業)	841,000		
建物 グローブハウス (カンダ事業)	1,790,846		
建物 クラージュハウス (カンダ事業)	1,800,292		
車両運搬具 バイク (カンダ事業)	0		
車両運搬具 オートバイ (カンダ事業)	111,732		
車両運搬具 ランドクルーザー (カンダ事業)	2,542,309		
車両運搬具 オートバイ (アジア事業)	0		
車両運搬具 ランドクルーザー (アジア事業)	0		
車両運搬具 ダイハツリオスケット (東日本大震災復興支援事業)	1		
車両運搬具 トヨタ オクシ (東日本大震災復興支援事業)	835,313		
車両運搬具 マツダ がら (東日本大震災復興支援事業)	0		
什器備品 パソコン5台	291,353		
土地 (カンダ事業)	444,234		
投資その他の資産			
敷金 事務所敷金 (管理・国内事業、東日本大震災復興支援事業)	490,000		
固定資産合計		9,147,080	
資産合計			34,670,418
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金 管理・国内事業 イベント会場使用料等	1,377,195		
未払法人税等 管理・国内事業 法人府民税市民税	70,000		
前受金 東日本大震災復興支援事業	13,090		
預り金 管理・国内事業 源泉所得税	30,234		
流動負債合計		1,490,519	
負債合計			1,490,519
正味財産			33,179,899

計算書類に対する注記

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準委員会）によっております。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

海外におけるPJの有形固定資産について、見積耐用年数を用い、残存価額0とした定額法により償却しております。

日本国内における有形固定資産については法人税法に規定する定率法、

100,000円以上200,000円未満の資産については3年一括償却によっております。

(2) 消費税等の会計処理

税込経理によっております。

2. 事業別損益の状況

別紙参照

3. 固定資産の増減内訳

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物	5,559,471			5,559,471	1,127,333	4,432,138
車両運搬具	6,936,378	3,613,210		10,549,588	7,060,233	3,489,355
什器備品	330,831	356,013		686,844	395,491	291,353
土地	444,234			444,234		444,234
投資その他の資産						
敷金	490,000			490,000		490,000
合計	13,760,914	3,969,223	0	17,730,137	8,583,057	9,147,080

2. 事業別損益の状況
事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位：円)

	啓発事業	東日本復興支援事業	人材育成事業	ウガンダ事業	コンゴ事業	アジア事業	事業部門計	管理部門	合計
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	15,411,000	15,411,000
受取寄付金	0	1,571,262	0	3,554,954	5,102,467	2,905,131	13,133,814	14,911,004	28,044,818
受取助成金等	0	0	0	2,435,614	312,815	3,166,860	5,915,289	750,000	6,665,289
事業収益	0	0	0	0	0	0	35,906,956	0	35,906,956
その他の収益	106	825	0	0	0	0	931	5,951	6,882
(1)受取利息	103,886	25,745	0	0	0	0	129,631	382,494	512,125
(2)雑収益	14,048,184	23,560,596	0	5,990,568	5,415,282	6,071,991	55,086,621	31,460,449	86,547,070
経常収益計									
1 事業費									
(1)人件費	2,784,772	8,727,804	1,529,685	2,898,405	1,062,712	5,691,333	22,694,711	4,337,726	27,032,437
給料手当	22,828	23,870	605,229	105,335	9,339	423,468	1,190,069	88,629	1,278,698
雑給	597,593	624,892	328,260	341,910	228,051	569,961	2,690,667	338,070	3,028,737
法定福利費	31,080	129,695	333,642	177,775	41,681	25,865	739,738	64,522	804,260
福利厚生費	3,436,273	9,506,261	2,796,816	3,523,425	1,341,783	6,710,627	27,315,185	4,828,947	32,144,132
(2)その他経費									
売上原価	1,226,058	14,421,522	0	565,491	141,450	0	15,647,580	0	15,647,580
通信費	324,750	528,734	175,863	12,608	15,390	334,137	2,070,425	423,214	2,493,639
運送費	150,454	32,519	12,105	0	0	25,918	248,994	23,548	272,542
運賃	202,495	214,558	0	0	0	0	417,053	0	417,053
水道光熱費	34,276	533,856	18,828	387,381	13,080	49,211	1,036,632	142,200	1,178,832
旅費交通費	515,783	5,826,816	249,002	5,571,401	925,077	1,281,063	14,369,142	4,028,764	18,397,906
広告宣伝費	16,318	62,754	8,964	9,336	6,227	15,564	119,163	17,437	136,600
接待交際費	64,538	240,362	35,451	36,925	24,629	61,554	463,459	68,961	532,420
会議費	103,730	131,464	58,083	86,169	39,005	124,726	543,177	112,613	655,790
支障物資費	0	0	0	2,824,916	3,231,499	2,935,571	8,991,986	50,749	9,042,735
事務用品費	122,482	605,029	51,131	117,786	49,970	114,463	1,060,861	127,601	1,188,462
備品消耗品費	60,573	72,593	21,854	144,508	113,242	93,681	506,451	52,924	559,375
新聞図書費	43,951	73,818	22,308	39,587	15,498	43,407	238,569	81,223	319,792
印刷費	868,937	396,426	208,245	244,631	145,775	367,448	174,904	410,668	2,642,130
修繕費	0	0	0	3,881	0	0	2,231,462	100,082	2,331,544
地代家賃	329,664	1,570,945	178,663	186,092	326,441	352,277	2,944,082	431,996	3,376,078
保険料	112,227	141,239	62,673	57,384	38,275	124,544	536,342	322,774	859,116
リース料	30,288	30,103	20,813	16,471	10,986	105,071	213,732	33,860	247,592
ホステリティ活動諸経費	0	0	10,717	0	0	0	10,717	0	10,717
販売促進費	271,690	1,550,663	0	235,344	1,380	3,450	1,822,353	0	1,822,353
租税公課	3,617	61,082	1,987	168,097	137,243	274,340	306,860	129,731	436,591
支払報酬	287,640	1,230,780	158,002	168,097	137,243	274,340	2,256,102	307,892	2,563,994
諸会費	32,287	33,762	17,735	18,473	12,321	30,794	145,372	34,501	179,873
システム使用料	157,114	179,831	86,303	89,892	59,957	149,849	722,946	167,879	890,825
支払手数料	192,622	215,535	100,912	100,912	65,973	178,696	848,700	658,369	1,507,069
減価償却費	0	1,479,686	0	297,047	865,128	66,527	2,708,388	144,730	2,853,118
雑費	929	65,569	247	9,715	171	26,688	103,319	1,934	105,253
雑損失	0	11,654	0	0	0	0	11,654	78,593	90,247
その他経費計									
経常費用計	5,152,423	29,711,300	1,493,936	11,224,047	6,238,717	6,930,002	60,750,425	7,952,243	68,702,668
当期経常増減額	8,588,696	39,217,561	4,290,752	14,747,472	7,580,500	13,640,629	88,065,610	12,781,190	100,846,800
	5,459,488	15,656,965	4,290,752	8,756,904	2,165,218	7,588,638	32,978,989	18,679,259	14,299,730



特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

〒600-8191

京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地
jimukinoueda bldg. 403号室

TEL/FAX : 075-741-8786

E-mail : contact@terra-r.jp

ホームページ www.terra-r.jp

フェイスブック [terra.ngo](https://www.facebook.com/terra.ngo)

ツイッター [@terra_ngo](https://twitter.com/terra_ngo)

制作後記

2012年度の年次報告書は、「活動の内容をより具体的に伝える」をテーマに制作しました。職員の方の「少くも文章が長くなってもいいから、しっかり活動してるんだぞってことを伝えたいんです。」という言葉がとても印象に残っています。一人ひとりの強い想いが、「全ての生命が安心して生活できる社会の実現」をデザインしているのだと、あらためて感じた制作期間でした。

活動の息づかいまで感じていただける本報告書を、ごゆっくりお楽しみください。

デザイン協力 ワトナス/小田起世和 www.watonas.com